

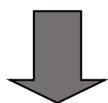
# 令和3年度 富士河口湖町総合教育会議資料

富士河口湖町立教育センター  
所 長 梶 原 斉

## 1 はじめに

※富士河口湖町立教育センター

- 平成17年に開設
- 目的：研修、研究、開発及び啓発を行い、教育振興、児童・生徒の健全な育成に寄与する。
- 設置条例第3条を基本に、8項目の事業を展開



- 平成27年度
  - ・富士河口湖町中央公民館1階に移転
  - ・今年度、7年目を迎えた



## 2 教育センター設置条例における事業について

第3条 教育センターは、次に掲げる事業を行う。

- (1) 教育に関する専門的、技術的事項の調査研究に関すること。
- (2) 教育関係職員の研修に関すること。
- (3) 教育に関する情報の収集、整理、保管及び活用に関すること。
- (4) 教育相談に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか富士河口湖町教育委員会が必要と認める事項。



具体的に8項目の取り組みを行っている

- ①教育に関する専門的、技術的事項の調査研究に関すること。
  - \* 理科・環境教育副読本、社会科副読本の作成（基本的には4年に一度改定）
    - ・企画委員会の開催（代表7名）
    - ・編集委員会（各校一人）
    - ・専門機関との連携（富士山科学研究所、町生涯学習課文化財担当、世界遺産センター、河口湖フィールドセンター、富士山自然保護センター等）
  - \* 富士山学習の充実（富士山科学研究所、富士山世界遺産センター等との連携）
    - ・「富士山の形と成り立ち」「河口湖新倉掘抜学習」
    - ・「防災教育プログラム化」
  - \* 新学習指導要領に向けての調査研究
    - ・「小学校外国語」「社会に開かれた教育課程」の実現のための支援

- ②学習開発に関すること。
- \* 地域を生かした体験活動（センターのプログラム）
    - ・「木工の学習」：図工3・4年生（西湖野鳥の森公園）
    - ・「役場見学」：社会科3年生（学校教育課を中心に各課との連携）
    - ・「河口湖新倉掘抜」：社会科4年生（生涯学習課文化財担当、史跡館）
- ③教職員の研修に関すること。
- \* 町単・期採・代替職員等の研修会（3回）
  - \* 支援員対象研修会
  - \* 新転入・新採用教職員等の郷土学習会（夏季休業中：町内施設の見学・学習会）
  - \* スキルアップ講座（夏季休業中）
    - ・外国語研修会
    - ・ICT研修会（情報教育研修会）
- ④教育に関する情報の収集、整理、保管及び活用に関すること。
- \* 教育に関するアンケート調査「富士山防災アンケート」  
「子どもの生活・意識アンケート」
  - \* 教育講演会の開催（教育三者共催で実施：町P連、郡P連、教育センター）
  - \* 教育センターだよりの発行（月2回）
- ⑤必要な研究組織の設置と運営に関すること。
- \* 運営協議会（教育センターの運営について、年に2回検討を行う）
  - \* 富士山学習研究会（5回）
    - ・各学校より1名の協力者を得て、企画運営を行う。
    - ・富士山学習の充実に向けての組織的研究
  - \* 特別支援教育研究会（特別支援コーディネーターの連携と研修）
  - \* 外国語教育研究会（2回）
    - ・小学校外国語科・外国語活動、「指導と評価の一体化」等についての研究
- ⑥教育相談に関すること。
- \* 令和2年度の相談件数：1043件（令和3年度10月現在775件）
    - ・町SSW、就学相談担当等との連携
    - ・学校と連携したケース会議の実施
    - ・保護者面談の実施
- ⑦幼保、小、中、高、大・関係機関等との連携に関すること。
- \* 保小中連携協議会の開催
  - \* 各保育所への訪問（情報交換）
  - \* 町SSW、就学相談員との連携
- ⑧その他目的達成に必要なこと。
- \* 代替職員の授業派遣：令和2年度：要請59回、派遣39回
  - \* 不審者対策
    - ・青色灯パトロールカーの巡回時間帯、コース等各学校とりまとめ（町地域防災課との連携）

### 3 具体的な取り組み（特に力を入れている取組・連携等）

#### (1) 相談業務（教育相談）

##### ① 2020年（令和2年度）の状況について

- ・相談業務 不登校関係 960件（10人） 卒業生等：42件（6人）  
学習支援（日本語指導訪問）：24件（1人）  
家庭教育9件（福祉推進課・卒業生のお母さん、親子関係、その他）  
問題行動：7件（2人） 発達相談：1件（1人）  
合計：1043件

##### ② 2021年（令和3年4月～10月まで）の状況について

- ・相談業務 不登校関係 734件（18人） 友人関係：9件（4人）  
心と身体相談関係：4件（2人） 問題行動：3件（3人）  
性格・行動相談関係：10件（2人） 卒業生等：12件（5人）  
学習相談：1件（1人） 家庭相談：1件（1人）  
いじめ相談：1件（1人）  
合計：775件

##### ③ 現在13名が通所（1年：3名、2年：3名、3年：7名）

※学校と相談を密にして対応していく。（子供を中心に据えて考えていく）

※あくまでも、イニシアチブ（主導権）は学校にある。教育センターは、相談・支援が役目（学校と家庭をつないでいる。）

※専門機関との連携（町就学支援員、SSW、町子育て支援課等）

※ケース会議（支援会議）への参加（必要に応じて）

※保護者相談（子どもの状況、進路等、情報共有、同じベクトルで支援）

#### (2) ケーブルテレビ河口湖との連携

- ① 「Enjoy English」英語チャンネル 第1弾～6弾の制作
- ② ドローン空撮ビデオの作成
- ③ 理科・環境教育副読本〔学校周辺の自然（各校ドローンによる空撮）〕

##### ① 「Enjoy English」英語チャンネル番組作成

昨年度から小学校5・6年で外国語が正式に教科となりましたが、町では平成30年から外国語科の先行実施を行い、教育センター所属の英語支援スタッフが支援してきました。昨年度、コロナの影響で休校中の子どもたちのために、英語支援スタッフ3名とケーブルテレビ河口湖が共同で、英語学習番組を制作し、家庭で英語学習を楽しんでもらうために5月中旬から第1弾を毎日2回放映したのをはじめ、夏休みまでに第5弾の英語番組を制作しました。また、今年度に入り8月に再び、コロナがまん延したため、第6弾となる英語番組の制作を行いました。



- ※第1弾：勝山小学校（センター職員出演）
- ※第2弾：勝山小学校職員出演
- ※第3弾：小立小学校職員出演
- ※第4弾：河口小学校出演
- ※第5弾：船津小学校職員出演
- ※第6弾：大石小学校出演



② ドローン空撮ビデオ・③理科・環境教育副読本（各校ドローンによる空撮）

教育センターで「ケーブルテレビ河口湖」に対し、富士河口湖町の様子を教材として、画像や映像で活用できないかを打診したところ、ドローン空撮を提案していただきました。空撮は昨年8月に行いました。町内各小学校周辺地域の画像や動画は、編集されDVD化し、昨年度改訂された『理科・環境教育副読本～私たちの自然～』の資料や小学3年生の社会科「まちの様子」、総合的な学習の教材、防災学習の教材として、各学校で活用されています。（1校4分×10校：DVD）

船津  
小学校



西浜  
小学校



小立  
小学校



勝山  
小学校



大石  
小学校



富士豊茂  
小学校



河口  
小学校



大嵐  
小学校



鳴沢  
小学校



旧精進  
小学校



理科・環境教育副読本

理科・環境教育副読本

みどりの富士山あおい湖

私たちの自然



富士河口湖町教育委員会  
鳴沢村教育委員会  
河口湖南中学校組合教育委員会

(3) 富士山学習（防災教育）の充実 ～専門機関との連携について～

- ① 町立教育センター研究員会（富士山学習研究会）について
- ② 防災に関する授業研究の実施（西浜小学校）
- ③ 富士山に関する知識と防災アンケートの実施
- ④ ジュニア防災士講座の実施について
- ⑤ 教頭会との連携（災害に関する危機管理マニュアル・避難訓練実施と見直し）

①町教育センター研究員会（富士山学習研究会）について（研究員は各校1名：12名）

※研究のテーマ

- ・ 世界文化遺産である「富士山」を児童生徒に伝えていくための授業実践をどう進めるか

◎富士山学習研究会で、特に中心として取り組んでいく内容について

※防災教育のプログラム化について（3年計画でのプログラム化）

① 指導案の検討（令和2年度）

② 各学校での授業実施及び、教育課程への位置づけについて検討（令和3・4年度）

\* 教育課程への位置づけについての検討（4年：自然災害 5年：水害 6年：火山）

\* 将来を見通した、富士山防災についてどう考えていくか

◎年間5回の研究員会（学習会の開催）

※関係機関の積極的な活用

町役場地域防災課



山梨県富士山世界遺産センター



山梨県富士山科学研究所



ケーブルテレビ河口湖

② 西浜小学校で防災に関する授業研究の実施

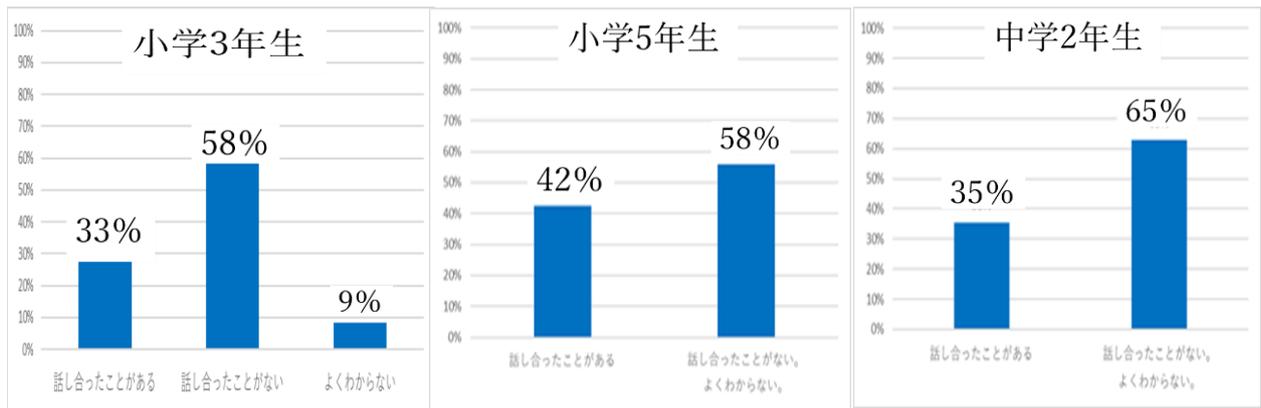


・ 実験を通して「どこで、どんな噴火をし、その時、自分はどこにいるのか」の情報を得ることは、適切な避難行動をとるために必要ということを学んだ

### ③ 「富士山に関する知識と防災アンケート」調査

昨年度実施したアンケートは、町内の子どもたちの富士山に関する知識と防災についての意識を把握するために実施しました。「富士山について知る」「富士山の魅力」「富士山にかかわる不安」「防災学習について」の4つのテーマで町内の小学校3年生、5年生および中学2年生を対象に調査しました。

#### 富士山が噴火した際のことを家族で話し合ったことがある



※家族で話し合ったことがあると回答した児童生徒は40%に満たない



※今後、防災教育プログラムを学校、家庭、町全体で計画的に取り入れていくことが課題

### ④ ジュニア防災士講座の実施について（コロナ感染拡大により中止）

\*講師として参加する予定だった方々

【町地域防災課長・係長・職員、ケーブルテレビ河口湖、町防災士（町議会議員2名含む）、山梨県立富士山科学研究所研究員、教頭会事務局、町立教育センター職員】



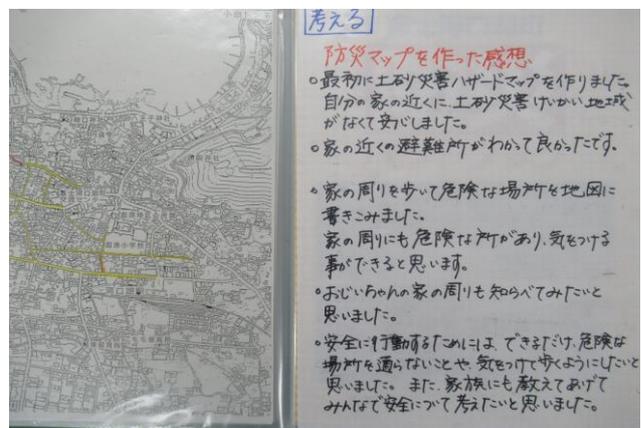
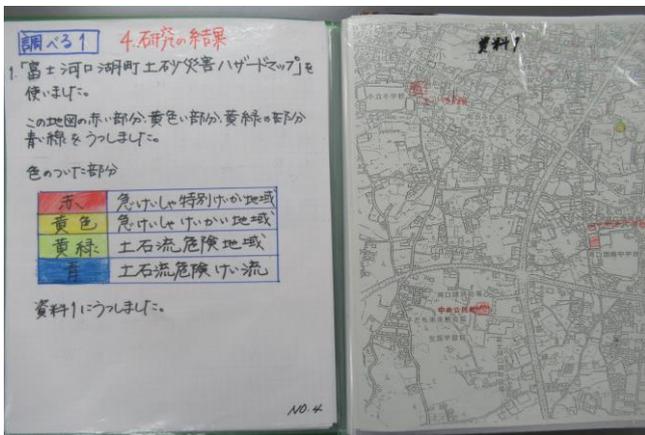
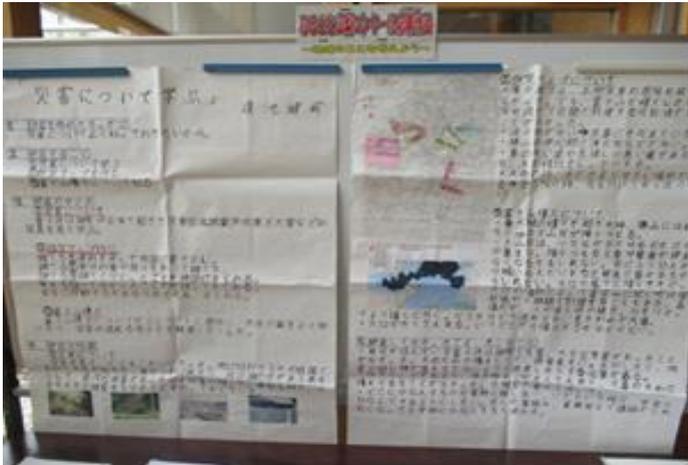
49名一人一人に届けた配付物



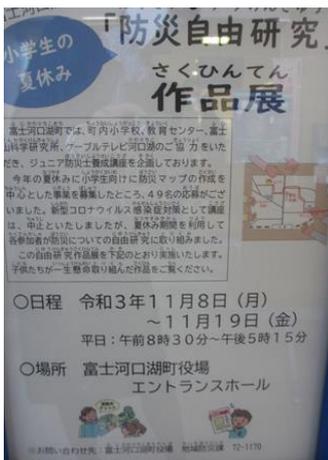
※夏休みの宿題提出人数：自由研究（防災について、防災マップづくり等）

・講座出席予定数49名中 ⇒ 17名が各学校へ提出

※14名がふるさと山梨郷土学習コンクール出展（2名入選）



※町役場で防災自由研究作品展を開催 11月8日（月）～19日（金）



## ⑤ 教頭会との連携

(災害に関する危機管理マニュアルの見直し、避難訓練の実施と見直し)

### 1) 災害に関する危機管理マニュアルの見直し(富士山科学研究所)

#### 富士河口湖町・鳴沢村 小中学校災害対応指針(案)について

##### 1. 災害対応について

###### 1.1. 目的

- 気象災害・土砂災害については、児童や生徒の身に危険が及ぶ前にできるだけ事前に対応を行う
- 地震災害のように突発的に発生する災害に対しては、被害を軽減することと2次災害への対応を行う
- 火山災害のように発生や収束の予測が難しい現象については、安全側の判断が行えるような対応を行う
- ”空振りではなく、素振り”という考え方を基に躊躇することなく避難行動がとれるように災害に関する情報に対して、日頃から感度を高く持つとともに、災害が発生しなかった場合、訓練や確認が行えたという考え方で対応を行う
- 学校が立地する地域を考慮した計画とする。
- 町内(鳴沢村も含む)の小中学校で統一した対応がとれるような計画とする

###### 1.2. 災害対応のレベルの設定(表1)

- 災害対応を行うにあたり、自然現象の時間的な推移やその影響の大きさに応じて、情報

令和3年度  
富士河口湖町立〇〇〇学校

### 地震・自然災害等発生時登下校・引き渡しマニュアル

危険レベル3	危険レベル2	危険レベル1
<p>◆災害発生したとき 震度5弱以上の地震が起きた場合</p> <p>◇災害が予測されるとき ・富士山の警戒レベル3(入山規制)以上が発令された場合 ・台風・大雨・大雪等(警戒レベル3以上)で学区内に高齢者等避難や避難指示が発せられた場合</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;"><b>学校待機の後、引き渡し</b></p> <p>▼全校児童を校舎・教室に待機させ、保護者への引き渡しを実施します。玄関が込み合うので、下履きのまま入室してください。</p> <p>▼引き渡しの際は、引渡カードに名前を記入し、担任にお渡しください。</p> <p>▼登校前の場合は、通学路及び校内の安全が確保されるまで、自宅に待機させてください。</p> <p>▼登下校中は、自宅・学校の近い方に避難します。</p> <p><small>※安心安全メールが使用できる場合は、緊急連絡を送りますが、大規模停電、電話(固定電話、携帯電話、メール)の不通も想定されます。上記の場合には、「児童全員を学校待機とし引き取り」をお願いします。</small></p>	<p>◆災害が発生したとき 大きな地震(震度4)が発生し、通常下校では危険が予想される場合</p> <p>◇災害が予測されるとき ・(南海トラフ)地震臨時情報(警戒・注意)が発令され、通常下校では危険が予想される場合 ・台風・大雨・大雪の影響(警戒レベル2)により通常下校では危険が予想される場合等</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;"><b>メール配信</b></p> <p style="text-align: center;">引き渡しもしくは引率集団下校で自宅へ</p> <p>▼全校児童を校舎・教室に待機させ、保護者への引き渡しを実施します。玄関が込み合うので、下履きのまま入室してください。</p> <p>▼引き渡しの際は、引渡カードに名前を記入し、担任にお渡しください。</p> <p>▼集団下校の場合は職員引率で下校します。ただし、保護者より連絡があった場合は、学校で待機させます。</p> <p>▼登校時は、職員が通学路の確認や交差点等によって登校指導をします。</p>	<p>◇災害が予測されるとき 差し迫った危険はないが、集団下校等の実施が安全と判断した場合(例)震度4以下の地震、集中豪雨・大雪、不審者徘徊、熊の出没等</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;"><b>メール配信</b></p> <p style="text-align: center;">引率集団下校で自宅へ</p> <p>▼集団下校の場合は職員引率で下校します。ただし、連絡があった場合は、学校で待機させます。</p> <p>▼児童館が利用可能な場合は、職員引率で児童館へも下校させます。</p>

## 2) 避難訓練の実施と見直し

例) 2021年4月15日小立小の地震避難訓練



机の脚を持って安全確保



3階建て鉄筋コンクリート造学校建物  
(1995年兵庫県南部地震実験)



渡り廊下の下を避難



渡り廊下東棟の外観



渡り廊下東棟の傾斜

家具転倒防止の再確認と避難経路の見直しを

※今ある計画を疑ってみたり、校内を点検してみませんか？



倒れたり移動したりするものは  
ありませんか？



勝山中学校では、初めて教室での引き渡し訓練を実施していました。実際にもそのような対応になるので、実対応の検証のため、その様な訓練をしてみませんか？

## 5 おわりに

平成 17 年に開設された教育センターは、平成 27 年度に中央公民館へと移転し、他機関との連携をそれまで以上に密にしながら活動を行ってきた。昨年度・今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、事業や活動が制限される中、学力充実や新しい教育課題に対応するため、町内教職員の資質向上を目指す教職員の研究会や調査研究、不登校をはじめとする学校不適応を示す子どもたちへの居場所づくり・学習支援・学校復帰に向けての支援、教育に関する様々な悩みへの教育相談等、8 項目からの事業を展開してきた。また、昨年度から本格実施された小学校英語科について、授業参観や研究会の実施等、課題改善に努める他、ケーブルテレビ河口湖と連携し、子どもたちが楽しめる英語番組の制作にも携わった。また、町の学習応援教室では、山梨大学との連携による学生ボランティアを活用し、中学校への対応も行った。学校の多忙化改善に向けセンターがどう関われるかも今年度の活動の重要な視点であった。これまで継続してきた事業の充実に加え、今日的な課題への対応としての新たな事業や町教委からの要請による業務等が加わり、これからを見据えた教育センター自身の業務の精選と再構築も大きな課題となっている。そういった中で、今後も、教育センターとして何を行うことが児童・生徒にとって必要かを大前提とし、富士河口湖町の教育課題や学校のニーズに応えた事業を行い、現場に生かす教育センターを目指し取り組みたい。